

人が輝きまちがときめく
ふれあい交流都市

広報

のほいべつ

2000/11/1
No.601

9月20日(水)、登別市婦人団体連絡協議会が主催する「第35回かあちゃんオリンピック」が総合体育館で開かれ、市内の町内会婦人会(部)や女性団体などから約200人が参加しました。

参加者は、孫に見立てた人形をおぶってリレーをする「孫の子守り」(写真)や、日ごろのごみ分別が試される「われらゴミ探偵団」など、ユニークな競技を通して交流を深めていました。

特集

まちづくりの 家計簿

まちづくりの家計簿

平成11年度の決算はどうなっているの？

今日は、あなたの好物の豚肉を買ってきたんだけど、カツにするとカロリーが心配だから、網焼きしてみたの。

わーおいしそう。僕、豚肉ならどんな料理でもいいよ。特にS子の作ってくれたものなら。それに、このサラダの彩りもいいし、結婚して良かったなあ。

久しぶりに早く帰ってこれたんだからゆっくり食べましよう。財政の仕事って忙しいと思うけど、今、どんなことをしてるの？

今、取り組んでいるのは、平成11年度の決算の仕事が主なんだ。ちょうどここに決算の資料があるから説明しようか。

表1を見て。これは平成11年度の決算を表したものだんだけど、市の会計は大きく分けて『一般会計』と『特別会計』に分かれているんだ。市が行う事業はたくさんあるから、特定の事業を行う場合は、収入と支出がはっきり分かるように特別会計を作るんだ。特別会計以外の会計を一般会計とい

まちに暮らす人々が快適に日々を過ごすことができ、生活の中に輝きを見いだせるまち。行政は、多くの人々が満足感を持って生活できる『まち』を実現するため、市民のみなさんの参画を得ながら、まちづくりを進めています。

しかし、どんなに素晴らしい将来構想があったとしても、先立つものがなくてはまちづくりを進めることはできません。

先立つもの、それはもちろんお金です。

市には、市民のみなさんの税金をはじめとするさまざまな収入、そして支出がありますが、市の財政事情や市を取り巻く状況を市民のみなさんに理解していただこうと、年に2回（5月・11月）行っている『財政公表』です。

今号では、今年結婚したばかりの財政課財政係I君と彼の妻S子さんとの会話を通して、市の財政の仕組みや用語、平成11年度決算と平成12年度上半期（4月～9月）の予算執行状況についてお知らせします。

って、道路や学校の整備、ごみ処理など、一般的な業務を行うんだ。

市の施設を維持管理する経費や、あなたの給料も一般会計から出てるのね。

そうなんだ。その中身をもうちょっと詳しく説明するね。まずは、収入。表2を見て。

「市税」は、市民税や固定資産税などのことだ。これは分かるよね。次の『地方交付税』っていうのは、僕らが国に納めている所得税や消費税、

法人税などの一部が市町村などに交付されるものなんだ。

ふーん。国に納めた私たちの税金が、市に地方交付税という形で戻ってくるんだ。

うん。『国・道支出金』というの、市が行っている特定の仕事に対して、国や道から交付される補助金などのことで、『クリンクルセンター』の建設にも補助金が交付されているんだよ。

次の『市債』というのは、市の借金

登場人物



財政係I君

市の財政を預かる財政係に異動して3年目。公私共に充実した毎日を過ごす。



S子さん

夫Iの偏食を直すことが日下の悩み。Iの仕事を理解し、良き妻となるため奮闘中。

▼クリンクルセンター



のことで、平成10年度と平成11年度を比べると、すこく減っているのが分かる



表1 平成11年度決算額

区分	一般会計	特別会計				
		国民健康保険	学校給食事業	公共下水道事業	老人保健	簡易水道事業
歳入	248億8,350万円	43億6,090万円	3億6,377万円	34億5,033万円	67億2,621万円	2,768万円
歳出	243億6,781万円	44億1,577万円	3億6,377万円	34億4,833万円	67億2,476万円	2,768万円
差引額	5億1,569万円	△5,487万円	0万円	200万円	145万円	0万円

表2 平成11年度決算の歳入内訳 (前年度比較)

費目	平成11年度	平成10年度	増減
市税	55.2億円	54.4億円	0.8億円
地方交付税	57.4億円	52.7億円	4.7億円
国・道支出金	53.7億円	52.4億円	1.3億円
市債	37.2億円	61.7億円	△24.5億円
その他	45.3億円	44.2億円	1.1億円
合計	248.8億円	265.4億円	△16.6億円

表3 平成11年度決算の歳出内訳 (前年度比較)

費目	平成11年度	平成10年度	増減
人件費	49.5億円	49.8億円	△0.3億円
扶助費	29.6億円	27.4億円	2.2億円
公債費	21.2億円	20.7億円	0.5億円
普通建設事業費	70.4億円	98.8億円	△28.4億円
その他	73.0億円	64.3億円	8.7億円
合計	243.7億円	261.0億円	△17.3億円

表4 市有財産の内訳 (平成11年度末現在)

区分	面積・金額	
土地	562万2,100㎡	
建物	26万1,100㎡	
基金など	現金	40億8,274万円
	土地	14万8,600㎡
その他	債権など	11億5,734万円
	土地	6万4,304㎡

かな? これは、「クリンクルセンター」などの新ごみ処理施設建設事業の借金が平成10年度に比べて約18億円少なくなったのが主な要因なんだ。

市の収入は、市税がほとんどだと思っていたけど、そのほかにもいろいろあるのね。

それじゃあ、次に支出について説明するね。表3を見て。

費目の欄には、人件費や扶助費と書かれているけど、これは市のお金がどんな性質のものに支出されたかを見る表なんだ。

例えば「人件費」。人件費というのは、僕たち職員や議員などに支出した給料や報酬が、いくらだったかを表すもので、「扶助費」は、医療費助成や児童手当、生活保護費などにくら

い支出したかを表しているんだ。「公債費」というのは借金の返済金のことだ。「普通建設事業費」というのは、道路や公園の整備、学校の建設・改築など、市の施設を整備する事業費のことなんだ。

普通建設事業費が大きく減っているのは、「クリンクルセンター」の建設が終わったことと関係があるのね。

うん。「クリンクルセンター」をはじめとする「新ごみ処理施設」は、平成9年度から平成11年度までの3年間で約90億円をかけて建設されたんだ。平成10年度の事業費が一番多くて約46億円かかったんだよ。平成11年度は約26億円だから、この事業だけで約20億円減っていること

物は26万1千100平方メートル。建物の換算はちよっと分かりにくいかもしれないけれど、「総合体育館」の床面積に例えたら、約93個分になるんだ。

そういう例えで説明してくれると分かりやすいわ。次の「基金など」って何のこと?



になるよね。だから、平成11年度は普通建設事業費が大きく減っているんだ。

市が持っている財産にはどんなものがあるの?

表4の「市有財産の内訳」についているのは市の財産のことをいっているの?

そうなんだ。市が所有している土地の面積は32万2千100平方メートル。これは、「岡志別の森運動公園」約80個分の広さなんだ。建



基金というのは、市の貯金のことで、特定の目的のために貯金しているものや、災害などの突発的な出来事に備えるものなど、いろいろあるんだ。今、登別市には14の基金があって、市民の生涯教育の充実や振興を図るために積み立てられている「生涯学習振興基金」や、墓地の管理や清掃を行うために積み立てられている「墓地管理基金」、最近設置されたものでは、新しい図書館を建設するために積み立てられている「新図書館建設基金」などがあるんだ。



市にはいろいろな貯金があるのね。でも、貯金というくらいだから必要なときには使えないわけよね。

今、国や地方の財政が厳しいっていわれているでしょ。金利も低いし、貯金するよりも使っちゃったらどうなのかしら。



そうだね。確かに、市の財政は厳しい状態にあるけど、だからといってどんどん使えるわけではないんだ。例えば、さっき話した「新図書館建設基金」は、新しい図書館を建てるために積み立てている貯金だから、財政が厳しいからといって使ってしまうわけにはいかないんだ。

でも、目的に合ったものなら使えるわけだから、今後、該当するものについては貯金を使っていくことも考えているんだ。

新たな借金をするよりも、貯金を使ったほうが金利の面からみても得だしね。

どうして市の借金はこんなにあるの？



表5に「市が支払わなければならない債務」ってあるけれど、借金の返済のことでしょ。

市債がほとんどを占めているのね。でも、市はどうして借金をするの？市の仕事もなるべく借金をしないで、市の方がいいと思うんだけど。だって、借金したら後々、返済しなければならぬし。



そのとおり。借金はなるべくしないほうがいいよね。でも、そうもいかないんだ。もし、僕たちが家を建てるとしたら、

手持ち資金がないから、住宅金融公庫や銀行などの住宅ローンを組まなければならぬよ。

市も同じで、学校を建てたり改築したり、道路を整備するためには、多額のお金が必要だよ。

さっきもちょっと話したけど、今年完成した「新ごみ処理施設」は3年間で約90億円もの費用がかかったし、「しんた21」は約14億円の費用がかかったんだ。

建設する年に入ってきた市税などをこれらに使ってしまうと、そのほかに市がやらなければならない道路や公園整備、教育、福祉などの事業費がなくなってしまうよ。

それと、「クリンクルセンター」や「しんた21」などの公共施設は、長い間みんなが使うわけだから、長期間に渡って返済していく形をとることで、世代間などの負担の公平化も図っているんだ。

表5 市が支払わなければならない債務 (平成11年度末現在)

区分	債務の残高	市民一人当たりの債務
市債	393億8,766万円	70万9,649円
債務負担行為	7億6,841万円	1万3,844円
土地開発公社	28億700万円	5万574円
合計	429億6,307万円	77万4,067円

表6 一時借入金の状況 (平成12年9月30日現在)

区分	金額
一般会計	3億円
国民健康保険特別会計	5億円
公共下水道事業特別会計	3億円
合計	11億円

▼総合福祉センター「しんた21」



そうね。

「クリンクルセンター」を建てるからといって、教育や福祉のサービスがなくなってしまうのは困るわね。

それに、負担を公平にすることも必要なことなのね。



市債には、いろいろな種類があるんだけど、「クリンクルセンター」や「しんた21」は、市債の半分以上が地方交付税として国から市に交付される予定なんだ。

だから、実質的には市の負担は半分以下で済むことになるんだよ。

新たな事業を行うときは、有利な市債を活用できるよう検討しながらやってみるんだ。



半分以上も戻ってくるの？
それってすごくお得な制度ね。
ところで、市の債務というの
は市債以外にもあるのね。

土地開発公社が28億700万円となって
るけど。

財政の再建と 『三つ子の赤字』の返済



そうなんだ。それじゃあ土地
開発公社を含めて、市の債務
の経緯について、詳しく説明
しよう。

これは、登別市の財政の歴史といっ
てもいいくらいなんだよ。

今から10年前。登別市には市債のほ
かに『三つ子の赤字』といわれていた
借金があったんだ。

その一つ目は、今、君が言った土地
開発公社の約37億2千万円。二つ目は、
株登別振興公社の約17億5千万円。三
つ目が、国民健康保険特別会計の累積
赤字で約1億5千万円。この3つの借
金で、合計が約66億2千万円にも達し
ていたんだよ。

へえー。市債のほかにそんな
に借金があったの。
どうして、こんな借金をした
の？



それを説明するためには、も
っと昔の話をしなさいといけな
いね。

今から30年前、登別市が市制を施行
したころは人口が急増して急激な都市
化が進んだんだ。

それに伴って学校や道路、福祉施設

などの整備を急ピッチで行わなければ
ならなかったんだ。

でも、昭和48年のオイルショック以
降は、税収の落ち込みなどで非常に厳
しい財政環境に置かれたんだ。

いくら厳しい財政環境に置かれたと
いっても道路や排水施設の整備は行わ
なければならぬ。

この状況に対応するため、民間資金
の導入を図り、株登別振興公社を設立
して事業を行ったんだよ。

この経費は、もちろん市が返済しな
ければならないんだけど、財政が悪化
して返済できなくなったんだ。

支ええなくなったっていった
けど、それじゃあ赤字が膨ら
んでしまうじゃない。事情は
分かるけど、いつかは支払わないとい
けないお金なんだから。



うん。それともう一つ、土地
開発公社なんだけど、この公
社は市の依頼を受けて土地を



▲クリンクルセンターと共に『新ごみ処理施設』として
建設された『廃棄物管理型最終処分場』の土地も土地
開発公社が先行取得し、市が購入したものの

先行的に取得するのが役割なんだ。

例えば、市が公園を作ろうとしたと
き、一度にすべての公園の用地を買う
ことは、たくさんのお金もかかること
だから困難だよ。

かといって、買う予定の土地を何年
も待っていると、その間に土地の値段
が上がったり、ほかの人に買われてし
まったりするかもしれないから、土地
開発公社が先行的に取得するんだ。

そして、市がその土地を利用すると
きは、土地開発公社から買い取って
公園を作るんだ。

でも、中にはすでに市が利用してい
るにもかかわらず買い取っていない上
地がある。

株登別振興公社と同じように、財政
状況の悪化から買い取りすることがで
きなくなったからなんだ。

もう一つは、国民健康保険特別会計
の累積赤字なんだけど、登別市の国民
健康保険は、高齢者の加入割合が高か
ったり、急激な医療費の伸びに見合っ
た保険料の引き上げを実施できなかった
ため、昭和60年度以降、7年連続の
赤字が発生してしまっただ。

**聖実な財政運営
株登別振興公社の解散**

今、三つ子の赤字はどうなっ
てるの？

うん。もちろんそのままにし
ておくことはできないから徹
底した経費の削減を図り、施

底した経費の削減を図り、施

建設などの事業を見送るなど、財政
再建に乗り出したんだ。

まず、株登別振興公社に対しては昭
和62年度から一部償還を始め、平成2
年度からは償還計画を立てて計画的に
債務の解消を図ったんだ。

その結果、平成11年度で償還を終わ
らせ、株登別振興公社は解散したんだ
よ。

▼平成11年12月6日、株登別振興公社の解散が承認された
臨時株主総会

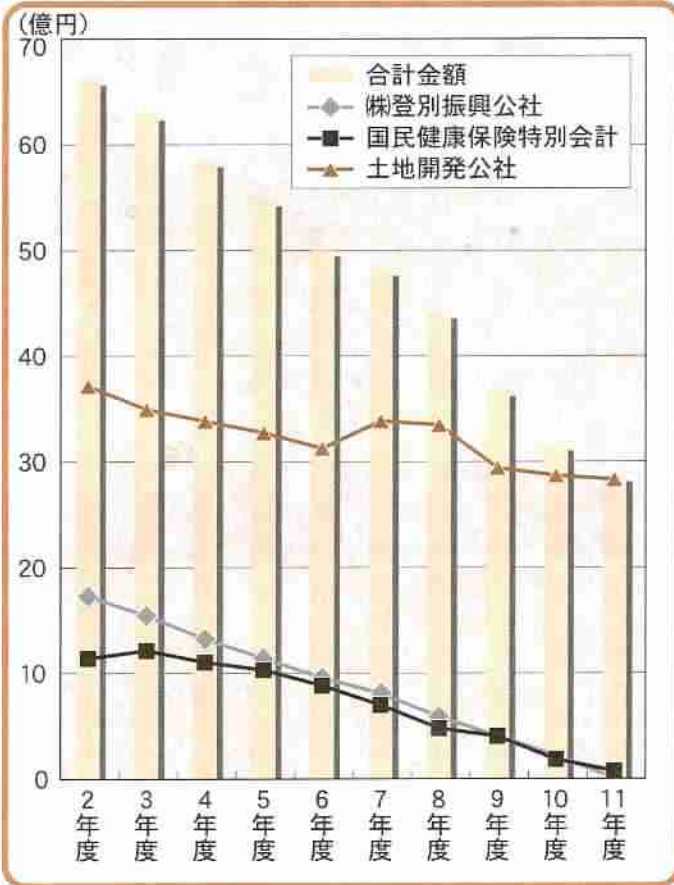


グラフィーの◆の部分がある
のね。■の国民健康保険特別
会計も累積赤字が減ってきて
いるのね。

そう。国民健康保険特別会計
の累積赤字が、平成3年度を
ピークに減ってきてるよ。

これは、保険料率の改正や限度額の引
き上げを行ったり、収納率を上げたり

グラフ1 三つ子の赤字の推移



すごいわね。土地開発公社は
どうなったの。▲を見るとあ
まり減ってないみたいだけ
この10年間は、株登別振興公
社の債務や国民健康保険特別
会計の赤字を減らすことで精

して、少しでも累積赤字を減らそうと
した結果なんだ。
もともと、国民健康保険特別会計は、
国民健康保険税の収入などで医療費を
賄うことになってるんだ。
でも、医療費の急増などで保険税が
追いつかなくなったため、国や市の一
般会計から支援をして累積赤字を平成
11年度の時点で約5千万円にまで減ら
したんだ。



一杯だったんだ。
でも、債務は膨らんでいく一方だか
ら債務の利子に相当する分の土地を市
が買い取り、土地開発公社の債務が増
えないようにしたんだ。
これらの対策によって、平成2年度
で約66億2千万円あった三つ子の赤字
は、平成11年度では約28億6千万円ま
で減らすことができたんだ。
10年間で約37億6千万円も減らした
ことになるんだよ。今後は、土地開発
公社の債務解消に向けて努力してい
かなければならないんだ。

表7の『平成12年度各会計予
算執行状況』は今年の予算の
ことね。



そんなあ！
僕だって仕事で疲れてるん
ですけど...

今日はいろいろ勉強したから、なん
だか疲れちゃった。茶わん洗いは、頼
んだわね。



なんか財政のことって分から
ないことが多いけど、いろい
ろ教えてもらって少し分かっ
たような気がするわ。

うん、いろいろあるんだ。
今回の噴火では、登別市に直
接被害は無かったけど、避難
所の開設経費や、避難してきた方が登
別市の市営住宅に入居するための経費、
登別温泉が風評被害を受けて宿泊客が
激減したため、その対策経費などが必
要になったんだ。

有珠山噴火で被災された方は
大変よね。
登別温泉もお客さんが減った
んでしょ。噴火によって市はどんな経
費がかかったの？



うん、いろいろあるんだ。
今回の噴火では、登別市に直
接被害は無かったけど、避難
所の開設経費や、避難してき
た方が登別市の市営住宅に入居するた
めの経費、登別温泉が風評被害を受け
て宿泊客が激減したため、その対策経
費などが必要になったんだ。

でも、予算を組んでも法律の改正や
突発的な災害など、予想できないこと
があるよね。そこで、当初予算のほか
に『補正予算』というものを組むんだ。
今年も9月30日現在で、一般会計と特
別会計を合わせて約3億6千万円の増
額補正をしているんだ。



一般会計では、有珠山の噴火災害の
経費が主なものなんだ。

市の年間予算は毎年3月に行
われる市議会定例会で決めら
れるんだけど、これを『当初
予算』というんだ。

でも、予算を組んでも法律の改正や
突発的な災害など、予想できないこと
があるよね。そこで、当初予算のほか
に『補正予算』というものを組むんだ。
今年も9月30日現在で、一般会計と特
別会計を合わせて約3億6千万円の増
額補正をしているんだ。

一般会計では、有珠山の噴火災害の
経費が主なものなんだ。

市の年間予算は毎年3月に行
われる市議会定例会で決めら
れるんだけど、これを『当初
予算』というんだ。

でも、予算を組んでも法律の改正や
突発的な災害など、予想できないこと
があるよね。そこで、当初予算のほか
に『補正予算』というものを組むんだ。
今年も9月30日現在で、一般会計と特
別会計を合わせて約3億6千万円の増
額補正をしているんだ。

表7 平成12年度各会計予算執行状況 (平成12年9月30日現在)

会計名	当初予算額	補正額	現行予算額	歳入		歳出		
				収入済額	収入率	支出済額	支出率	
一般会計	207億200万円	1億2,255万円	208億2,455万円	95億3,939万円	45.8%	73億9,157万円	35.5%	
特別会計	国民健康保険	43億4,540万円	44億967万円	11億5,946万円	26.3%	17億4,758万円	39.8%	
	学校給食事業	3億7,690万円	3億7,690万円	8,672万円	23.0%	1億4,564万円	38.6%	
	公共下水道事業	31億6,900万円	1億4,772万円	33億1,672万円	3億1,973万円	9.6%	9億9,873万円	30.1%
	老人保健	65億9,530万円	2,658万円	66億2,188万円	24億7,621万円	37.4%	26億8,475万円	40.5%
	簡易水道事業	2,870万円	0万円	2,870万円	202万円	7.0%	282万円	9.8%
	介護保険	22億4,550万円	0万円	22億4,550万円	7億6,746万円	34.2%	5億9,366万円	26.4%
合計	374億6,280万円	3億6,112万円	378億2,392万円	143億5,099万円	37.9%	135億6,475万円	35.9%	

水づくりの家計簿

市は、おいしく安全な水を供給するため、計画的に水道事業を運営しています。

今号では、平成11年度の収支決算と平成12年度の予算執行状況などをグラフと表でお知らせします。

◎給水状況

平成12年3月31日現在、登別市の給水人口は5万3千550人で、年間給水量

は約1億立方メートル。みなさんが一日に使用した量は、一人平均240リットルです。

◎収支状況

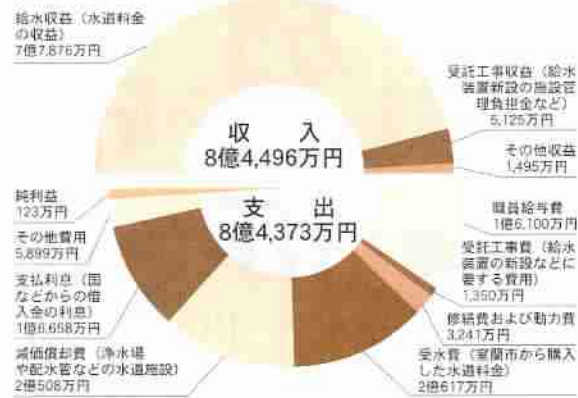
平成11年度は、長引く景気の低迷のため、営業収益が落ち込みましたが、徹底した経費の節減に努めたことで、約13万円の純利益が生じました。この利益は、全額、借入金返済のために積立金としました。

また、「より安全でおいしい水の供給」、震災などの災害時の給水確保のため、幌別浄水場の薬品注入設備や登別温泉浄水場のろ過池の改修、市内各所の老朽石綿管などの改良を実施しました。今後も安定した水の供給を行うため、水道施設の整備・拡充や水質管理の強化を図ります。

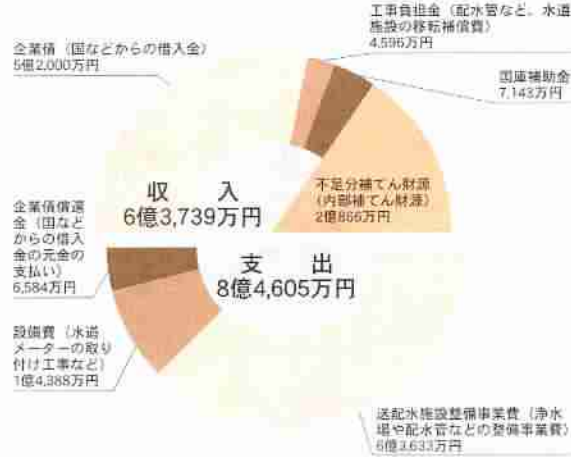


▲今年の6月6日、水道週間に伴い桜ヶ丘町会と幌別婦人会、登別管工事業協同組合が美園配水池で行った記念植樹

平成11年度営業の収支決算



平成11年度施設整備の収支決算



長期借入金残高(平成11年度末現在)

区分	借入金現在高
元金	45億 873万円
利子	21億3,119万円
合計	66億3,992万円

平成12年度予算執行状況(平成12年9月30日現在)

区分	予算現額	執行額	執行率	
営業に係る収支	収入	9億1,196万円	4億3,143万円	47.3%
	支出	9億3,999万円	3億1,749万円	33.8%
施設整備に係る収支	収入	2億6,600万円	403万円	1.5%
	支出	7億5,751万円	3億7,863万円	50.0%
合計	収入	11億7,796万円	4億3,546万円	37.0%
	支出	16億9,750万円	6億9,612万円	41.0%



登別市功労者表彰 登別市民表彰

登別市功労者表彰・登別市民表彰は、永年にわたり登別市の行政や社会福祉などに貢献された方、また模範となる行いをされた方の功績をたたえるものです。

このたびの受賞者は、市功労者11人、市民表彰者30人・1団体（自治貢献表彰2人、社会貢献表彰18人、教育文化貢献表彰5人、善行表彰5人・1団体）で、11月3日（金）の文化の日に市民会館で表彰式が行われます。

なお、今号では、5月29日に登別市功労者として表彰された方も併せてご紹介します。

永年にわたり、登別市教育委員会教育長として教育文化の推進に貢献されるとともに、町内会長として地方自治の振興に尽力され、市政の発展に寄与されました。



やすだ まさお さん (79歳)
安田 麻夫 さん (79歳)
常盤町1丁目12番地1

永年にわたり、町内会長として地方自治の振興に尽力され、市政の発展に寄与されました。



こもり さたろう さん (74歳)
小森 佐太郎 さん (74歳)
中央町7丁目38番地1

永年にわたり、民生委員・児童委員として社会福祉の向上に寄与されました。



よしおか まさあき さん (73歳)
吉岡 正章 さん (73歳)
桜木町5丁目1番地2

永年にわたり、民生委員・児童委員として社会福祉の向上に寄与されました。



わだ しょうじろう さん (69歳)
和田 正二郎 さん (69歳)
登別本町3丁目12番地29

永年にわたり、民生委員・児童委員として社会福祉の向上に寄与されました。



いしもと しげお さん (69歳)
石本 繁雄 さん (69歳)
片倉町5丁目18番地1

永年にわたり、登別保護区の保護司として社会福祉の向上に寄与されました。



くさしおつる え さん (84歳)
草塩 ツルエ さん (84歳)
中央町3丁目12番地4

永年にわたり、登別保護区の保護司として社会福祉の向上に寄与されました。



えんどう きみこ さん (75歳)
遠藤 喜美子 さん (75歳)
中央町6丁目4番地2

永年にわたり、商店会長ならびに商工団体役員として商業の振興に寄与されました。



かけはし しげき さん (74歳)
梶 成輝 さん (74歳)
中央町4丁目7番地1

市民表彰

自治貢献表彰



はまだ しょうそう さん (72歳)
登別温泉町60番地

永年にわたり、登別市消防団団長として消防使命の達成に尽力され、郷土防災に寄与されました。

渡部 雅子 さん (53歳)
新川町4丁目11番地14

多年にわたり、登別市議会議員として地方自治の振興に貢献されました。

三浦 虎雄 さん (70歳)
若山町2丁目7番地10

多年にわたり、町内会長として地方自治の振興に貢献されました。

社会貢献表彰

伴野 京子 さん (65歳)
新川町2丁目17番地4

多年にわたり、民生委員・児童委員として社会福祉の向上に貢献されました。



きむら こういち さん (71歳)
富士町4丁目4番地4

永年にわたり、登別市消防団副団長として消防使命の達成に尽力され、郷土防災に寄与されました。

橋 昭次 さん (56歳)
中央町1丁目5番地9

多年にわたり、民生委員・児童委員として社会福祉の向上に貢献されました。

若木 日出男 さん (62歳)
登別東町2丁目27番地3

多年にわたり、登別保護区の保護司として社会福祉の向上に貢献されました。

岩倉 志子 さん (57歳)
登別温泉町72番地

多年にわたり、登別保護区の保護司として社会福祉の向上に貢献されました。

早川 邦雄 さん (51歳)
富士町6丁目20番地1

多年にわたり、学校歯科医として園児の健康管理に貢献されるとともに、歯科保健業務歯科医として地域医療の向上に貢献されました。



やえがし しょうじ さん (72歳)
富士町7丁目48番地4

永年にわたり、登別市消防団分団長として消防使命の達成に尽力され、郷土防災に寄与されました。

野村 慶子 さん (43歳)
新生町1丁目1番地6

多年にわたり、学校歯科医として園児の健康管理に貢献されるとともに、歯科保健業務歯科医として地域医療の向上に貢献されました。

佐藤 豊 さん (48歳)
室蘭市幸町4番12号

多年にわたり、学校歯科医として生徒の健康管理に貢献されるとともに、歯科保健業務歯科医として地域医療の向上に貢献されました。

山谷 つね子 さん (69歳)
幸町5丁目4番地1

多年にわたり、登別市国民健康保険運営協議会委員として国民健康保険の運営に貢献されました。



うへだ けんぞう さん (享年60歳)
鷺別町5丁目3番地9

永年にわたり、登別市議会議員として地方自治の振興に尽力され、市政の発展に寄与されました(平成12年5月29日に表彰)。

三木 榮子 さん (53歳)
登別本町2丁目35番地1

多年にわたり、登別市交通安全指導員として交通安全思想の啓蒙ならびに交通事故防止に貢献されました。

堀井 毅 さん (79歳)
若山町1丁目10番地14

多年にわたり、老人クラブ会長として社会福祉の向上ならびに老人クラブの指導育成に貢献されました。

小野田 惣三郎 さん (77歳)
柏木町4丁目15番地2

多年にわたり、老人クラブ会長として社会福祉の向上ならびに老人クラブの指導育成に貢献されました。

市民表彰

中幡重信さん (75歳)
千歳町3丁目25番地1

多年にわたり、老人クラブ会長として社会福祉の向上ならびに老人クラブの指導育成に貢献されました。

千葉信男さん (75歳)
若草町1丁目10番地9

多年にわたり、老人クラブ会長として社会福祉の向上ならびに老人クラブの指導育成に貢献されました。

山下政一さん (84歳)
幸町3丁目1番地1

多年にわたり、老人クラブ副会長として社会福祉の向上ならびに老人クラブの指導育成に貢献されました。

板谷磯城さん (84歳)
新川町2丁目32番地10

多年にわたり、老人クラブ副会長として社会福祉の向上ならびに老人クラブの指導育成に貢献されました。

今田達さん (79歳)
千歳町159番地3

多年にわたり、納税貯蓄組合長として納税思想の啓蒙普及に貢献されました。

佐藤正男さん (70歳)
登別本町2丁目54番地3

多年にわたり、納税貯蓄組合長として納税思想の啓蒙普及に貢献されました。

小笠原衛さん (56歳)
中登別町70番地

多年にわたり、納税貯蓄組合長として納税思想の啓蒙普及に貢献されました。

教育文化貢献表彰

近藤トシ子さん (66歳)
桜木町2丁目10番地1

多年にわたり、登別市青少年補導委員として青少年の非行防止ならびに青少年の健全育成に貢献されました。

若原智代さん (59歳)
新川町2丁目37番地2

多年にわたり、登別市青少年補導委員として青少年の非行防止ならびに青少年の健全育成に貢献されました。

筑野栄子さん (58歳)
栄町3丁目12番地4

多年にわたり、登別市青少年補導委員として青少年の非行防止ならびに青少年の健全育成に貢献されました。

山瀬光枝さん (52歳)
中登別町220番地5

多年にわたり、登別市青少年補導委員として青少年の非行防止ならびに青少年の健全育成に貢献されました。

村本和夫さん (56歳)
千歳町6丁目1番地28

多年にわたり、体育団体役員ならびに指導者として体育の振興に貢献されました。

善行表彰

ES エスエルジー
SLG

片倉町6丁目27番地

多年にわたり、地域文化の継承ならびに高齢者と子どもの世代間交流に貢献されました。

齋藤五郎さん (69歳)
片倉町2丁目4番地20

多年にわたり、自作の木製書架を図書館に備え付けるなど模範的な奉仕活動に貢献されました。

笹川和男さん (70歳)
新川町4丁目3番地19

多年にわたり、地域の環境美化運動ならびにサイクリング運動の模範的な奉仕活動に貢献されました。

森谷農夫雄さん (77歳)
常盤町4丁目36番地2

多年にわたり、地域の環境美化ならびに緑化に努め、模範的な奉仕活動に貢献されました。

戸田憲吉さん (72歳)
幌別町5丁目7番地2

多年にわたり、地域の環境美化ならびに緑化に努め、模範的な奉仕活動に貢献されました。

高澤光男さん (66歳)
若山町4丁目2番地24

多年にわたり、地域の福祉活動ならびに環境美化運動の模範的な奉仕活動に貢献されました。

登別市功労者表彰・登別市民表彰
についてのお問い合わせは

総務課 総務係

☎ 011-30 (内線210)

進んでいます

北駅前通りの整備事業

問い合わせ 都市計画課 (☎4115)

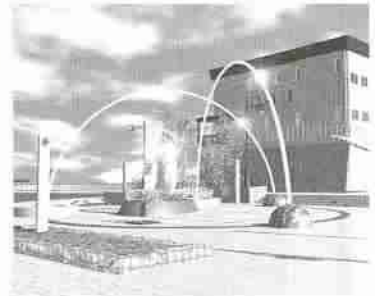


平成10年度から北海道が主体となって行っている中央地区と片倉地区の整備は、平成11年度までに富士橋の架け替え工事や道路の改築工事(一部を除く)が完了し、今年度は、道路の一部とJR幌別駅前広場(約5,000平方メートル)の整備が行われています。

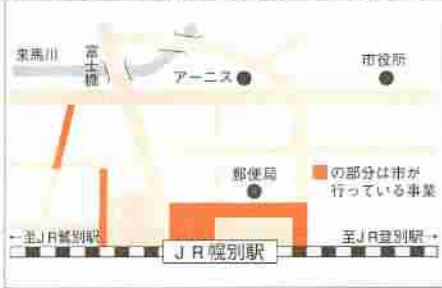
現在、北海道は、JR幌別駅前に集中する交通機関の乗り継ぎなどを円滑にするため、バス乗降場3カ所やタクシー乗降場1カ所、駐輪場1カ所(約100台収容)、照明灯設置などの工事を進めています。これに合わせて市は、景観に配慮した施設整備を図るため、JR幌別駅前広場にモニュメントや案内板、装飾電話ボックスの設置を行うほか、周辺道路の整備や歩道のカラーブロック化、デザイン照明灯の設置など、ゆとりと潤いのあるまちづくりを進めています。

市は、今後、平成13年度中にJR幌別駅周辺道路の改築、平成14年度までに駐輪場の整備を行い、北駅前通りの整備をすべて完了する予定です。

(平成12年度の事業費は、北駅前通整備事業費が約3,700万円、市道改良・舗装事業費が約9,500万円)



▲このモニュメントは、市制施行30周年・西暦2000年記念事業として、12月上旬に設置される予定で、東京芸術大学教授の伊藤隆道(いとうたかみち)さんがデザインしたものです。モニュメントのタイトルは「未来・はじまる」で、2本の虹・2個の卵・1本の樹とここを訪れる人々による「宇宙」は未来につながり、未来が始まる広場となることをイメージしたものです。



市の事業紹介

市は、私たちのまち『のほりべつ』が市民のみなさんに愛され、共に暮らす喜びを見いだせるまちにするため、さまざまなまちづくりを進めています。今号では、市内で行われている主な事業の経過をお知らせします。

進めています

教育用コンピューターを導入

問い合わせ 学校教育課 (☎1162)

急速に進展する高度情報社会に対応できる人材を育成するため、小・中学校にコンピューター教育の導入などを盛り込んだ『新学習指導要領』(文部省・平成14年度実施)を見据え、市は、市内の小・中学校でコンピューター教育が行える環境を整えています。小学校には平成10年度から、中学校には平成4年度からコンピューター導入・整備を行っており、今年度は、緑陽中学校にコンピューターを29台、富岸小学校に14台、幌別東小学校に14台、更新または新規導入しました。

また、今後、市内の中学校全校がインターネットへ接続できる環境の整備と、コンピューターネットワークを使って学校内の情報などをやりとりする校内LAN(情報通信ネットワーク)の整備を行います。平成13年度には、幌別小学校と登別温泉小学校にコンピューターを新規導入し、年度内に市内の小・中学校全校でコンピューター教育が行える環境を整える予定です。(事業費は、2,721万円)



婦人センターの改修

問い合わせ 商工労政課 (☎2171)

塩害や風雨などで傷んでいた外壁全面の地下活性化と塗装を行ったほか、1階・2階・3階ホールのサッシ取り替えて景観の改善を行いました。

内部は、2階講堂と3階軽運動場の老朽化した照明器具の取り替えを行ったほか、2階講堂の音響設備の取り替えを行い、操作しやすい音響調整室に改修しました。

また、ダムウェーター(荷物専用のエレベーター)を設置し、利用者が荷物などの運搬を容易に行えるようになりました。今後、センター内の補修を引き続き行う予定です。

(事業費は、5,500万円)





▲連日、大勢の市民でにぎわった「産業フェア2000in登別」

緑の庭に大きく育て

～住民参加による地域の緑づくり～

青空が広がった秋晴れの10月4日(木)、廃棄物管理型最終処分場(千歳町)内の庭に、日本工学院北海道専門学校の学生と関係者ら約40人によってつつじなどが植栽されました。

この植栽は、緑に直接ふれることで緑に対する意識を高めてもらうことを目的に、地域住民の参加を得ながら市内の公園や公共施設などで行われています。

この日は、黒土やたい肥、腐葉土の混ぜ合わせ方などの指導を受けたあと、市の木である「プラタナス」や市の花木である「つつじ」など約50本を植栽しました。



全道各地の会員が交流

～第37回全道老人クラブ大会～

9月28日(木)と29日(金)、市民会館で2000年記念事業・登別市市制30周年記念「第37回全道老人クラブ大会」が北海道老人クラブ連合会などの主催で開催され、全道各地から約1,000人が参加し交流を深めました。

初日は前夜祭の「演芸交流の夕べ」が行われ、2日目は開会式や記念講演が行われました。

記念講演では、「長寿の健康法」と題して、五輪橋産科・婦人科・小児科病院の院長・丸山淳士さんが講演、長寿の秘けつはないが、「住む場所を変えない」「小さいことにでも感動する」「明日の心配をしない」など長寿の持論をユーモアを交えて話していました。



産業フェア2000in登別

9月30日(土)と10月1日(日)の2日間、総合体育館で産業フェア2000in登別実行委員会主催による市制施行30周年・西暦2000年記念事業「産業フェア2000in登別」が開催されました。

産業フェアが開催されるのは3年ぶり4回目で、今年の「産業フェア2000in登別」は、「21世紀へ翔ける登別」をテーマに、地場産業の技術や製品などを紹介し、地域に根ざした産業の育成と振興を図ることを目的に開催されたもので、市内のほか、室蘭市や白老町などから38の企業・団体が出展。工業から情報通信、環境分野まで、これまで培ってきた技術や独自性あふれる製品が紹介されました。

また、子どもからお年寄りまで幅広く楽しめるように、市内小・中学校の発明工夫展や、地元農産物・木工品などの即売のほか、遊び・体験コーナー、郷土芸能などの披露もあって、2日間で約16,000人もの市民が会場を訪れました。



▲アイデアを生かしたユニークな作品と研究が並んだ市内小・中学校の発明工夫展

地場産業の技術に感心

力作の展示に心和ませ

～第22回登別美術協会公募展～

10月6日(金)から9日(月)にかけて、鶯別公民館を会場に、市制施行30周年記念・第22回登別美術協会公募展が開かれました。

この公募展には、登別市や室

蘭市、伊達市からの応募作品と登別美術協会会員による油彩や水彩、陶芸などの作品合わせて74点が展示されました。

最高賞の協会賞を受賞した深川悦夫さんの油彩画「登山」をはじめ、四季折々の移り変わりを美しい彩色で表現した風景画や百号を超える人物画など、力作の数々が見学者の心を和ませていました。





▲たくさん子どもたちが作品づくりに挑戦

最先端の情報設備を体験

～第19回工学院祭～

9月23日(土)と24日(日)の2日間、日本工学院北海道専門学校で、第19回工学院祭が開催されました。

同校の新施設『MCラボ』と東京校のメディアスタジオを結んでの「遠隔授業体験」をはじめ、自分の歌声をCDに録音する「オリジナルCDをつくろう」など最先端の情報設備を生かした催しが行われ、家族連れなど訪れた多くの市民が最新機器を体験しました。

また、学校の内容を広く知ってもらおう『オープンキャンパス』も同時に開催され、知内町から見学に来た知内高校3年の間谷陽介さんは「高性能のパソコンなど設備の整ったきれいなキャンパスですね。ぜひここで学んでみたいです」と話していました。



湿原の在り方で意見交換

～若山町の湿原を考える会～

9月30日(土)、若山町の湿原保全の基本設計の策定にあたり、湿原の貴重な植物の現状を知り、整備の在り方を一緒に考えようと「若山町の湿原を考える会」が開催され、約30人の市民が参加しました。

市民会館で、札幌市立高等専門学校教諭の矢部和夫さんの湿原に関する講義を聴いて、若山町の現地を視察。視察後、5グループに分かれて自由討論が行われ、「貴重さが分からない、もっと勉強を」「観光として活用できないか」などいろいろな意見が出されました。

同会では、今後も討論の場を設けて整備案をまとめていきます。



体験学習の楽しさを満喫

～生涯学習まなびフェスティバル～

9月23日(土)と24日(日)の2日間、市と登別市ふるさと広場実行委員会共催による市制施行30周年・西暦2000年記念事業「生涯学習まなびフェスティバル」が市民会館で開催されました。

初日は、市内のボランティア団体やサークルなどの協力により、切り絵や陶芸などの体験・工作コーナーなどが設けられ、訪れた市民は各コーナーを回りながら、作品づくりを楽しんでいました。

2日目は、元NHKアナウンサーの鈴木健二さん(青森県文化アドバイザー・青森県立図書館長)による「自らの人生を最高に生きるために」と題した生涯学習講演会が行われ、今求められる教育の在り方や失われつつある日本の良き慣習への思いなどが語られ、詰め掛けた約700人の市民は熱心に耳を傾けていました。



▲教育への思いを熱く語る鈴木健二さん

海を生かしたまちづくりとは

～第9回のほりべつ市民大学～

10月13日(金)、市民会館で市制施行30周年・西暦2000年市民実行委員会主催による「第9回のほりべつ市民大学」が開催されました。

漁業関係者や釣りの愛好家をはじめ市民約60人が参加して行われたこの日のテーマは「海に求める街づくり・登別編」。北海道大学大学院水産科学研究科助教の山下成治さんが「漁港づくりに必要なのは、そこに住む人の心が込められていること。温泉から車で約10分で海に来れる立地条件を生かしては」などと話した後、参加者は山下さんを変え、海や海岸、漁港を活用したまちづくりについてグループディスカッションを行いました。



市民リポーター

榎原 倫子さん

●さかきばら ともこ
若草町在住。17歳。
彦別市出身。室蘭栄高校2
年生。文章を書くことが好
きで、報道や紙面編集など
の職業にあこがれています。



▼新ごみ処理施設『ク
リンクルセンター』

▲15年分のごみ処分を見込んで
建設された『廃棄物管理型最
終処分場』。しかし、ごみの
分別とリサイクルの推進状況
によって、埋め立てに対応で
きる年数は長くも短くもなる。



みんなで進める ごみの減量

ごみの分別・リサイクル の現状と課題

今年からごみの分別方法が新しくなるととも
に、その処理が有料になりました。

現在、ごみの新しい分別方法とリサイクル
は、私たち市民に受け入れられ、順調に機能
しているのでしょうか。

ごみの分別とリサイクルに取り組んでいる
方を訪ね、現状や課題などについてリポート
しました。

ごみの新しい分別方法と 家庭ごみの有料化

近隣都市で相次いで導入されてきた
家庭ごみの有料化。

私たちのまち彦別市でも、ごみの新
しい分別方法がスタートして7カ月、
家庭ごみの排出の有料化がスタートし
て7カ月が経過しました。

その目的は、ごみ処理の経費で市の
財政が圧迫され、多様化する市民の要
求に対応しきれなくなることや負担の
公平化などが挙げられますが、重点は
ごみの減量・分別・リサイクルの推進
にあります。

ごみを減量するには、リサイクルが
必要で、リサイクルを進めるには、ご
みの分別は欠くことのできないもので
す。しかし、そこには、違反ごみの問
題が生じてきます。

新ごみ処理施設『クリンクルセンタ
ー』は、ダイオキシン類の発生を国が
示した濃度基準 1.0×10^{-6} 以下よりも低い、
 0.1×10^{-6} 以下（ 1.0×10^{-6} は10億分の1）
を独自の基準として運転管理していま
す。また、同じく新設された「廃棄物
管理型最終処分場」は、汚水による土
壌などへの汚染対策も万全で、2重に
張られた遮水シートや漏水検知システ
ムなどが設置されています。



市民リポートは、市民のみな
さんが自由に発想・企画する
ページです。

それぞれの視点から見た ごみ分別の状況は？

地域の目から見たごみの分別状況は
どうでしょう？

取材した若草第二町内会では、違反
ごみを出させないためにクリーンリ
ーダーを中心としたごみ当番を設け、交
代でごみ排出のチェックを行ってきま
した。



遠藤 昇子さん

ごみ当番を経験した遠藤昇子さんに、
お話を聞きました。



▲リサイクルを推進するため、年2回開催される市主催の『再生展示品の抽選会』。

▼燃やせるごみとして排出され、焼却炉から回収された不燃物。



▲クリーンリーダーとごみ当番が、ごみステーションを巡回し、家庭ごみの排出状況を確認。(若草第二町内会)

「ごみの分別は良くなってきていますが、まだ、年配の方に分別が理解されていない傾向がありますね。市が配布したごみ分別のパンフレットなどをもう一度読んで、確認してほしいですね。それから、ごみの排出についてもですが、私たち清掃作業員は、1日平均



佐竹 義行さん

「ごみ当番は、違反ごみが出ると、そのごみを持ち帰り、分別し直すことになっていきます。ごみ当番を経験することで、私もそうですが、みなさん、ごみの分別に対する意識が高くなっていくと思いますね。だんだんと違反ごみは減ってきています。でも、まだ収集が終わってから出す方もいます。それと、この辺のごみステーションは道路に面しているの、他の地域の方が車で来て、ごみを置いていくことも多いんですよ」とごみ当番を通して感じることなどを話してくれました。

では、ごみを収集する側から見ると、どうなのでしょう。

市から委託を受け、だれもが敬遠しがちなごみの収集業務にあたる若者の姿、てきぱきとしたその作業風景は、見ていて気持ちがよいものです。

登別クリーンサービス㈱に勤める佐竹義行さんは、そんな若者の一人。



山路 晋彦さん

「4月の有料化スタート時は、指定ごみ袋以外による排出や、分別の不徹底が各ステーションで多く見られました。底が各ステーションで多く見られましたが、今では約8割のステーションで改善され、初年度としては良い結果が出ています。しかし、一部のステーションでは、まだ分別が正しくされておらず、燃やせるごみと燃やせないごみ

で取り分けのごみステーションを回っており、生ごみの汚水が漏れていたりと、詰めすぎによる袋の破れなどがあると、作業が遅れてしまいます」とごみ排出の現状や苦勞を話す佐竹さん。

「作業マニュアルでは、ごみ袋に混入した突起物などで指が刺さらないよう、袋の結び目をつかむことになってます。ごみ処理手数料を節約するために、1枚のごみ袋にたくさんのごみを詰め込むあまり、結ばずにガムテープで留めてあるものが見られます。結び目がなくて収集作業に手間取りますし、危険です。ごみ袋は、きちんと結んで出してほしいですね」と佐竹さんは、ごみ排出時の注意点についても話してくれました。

最後にクリーンセンターを訪ね、市全体の分別状況についてお聞きしました。

このような徹底したごみ減量化の取り組みすべてを、今すぐ登別市で実行していくのは難しいでしょう。

しかし、ごみの問題は、今や地球規模の問題。私たち一人ひとりが認識を深め、その解決に向かって努力することは忘れてはいけないと思います。

「1月の有料化スタート時は、指定ごみ袋以外による排出や、分別の不徹底が各ステーションで多く見られましたが、今では約8割のステーションで改善され、初年度としては良い結果が出ています。しかし、一部のステーションでは、まだ分別が正しくされておらず、燃やせるごみと燃やせないごみ

が混在した状態で排出が見られますね。分別が正しくないと、さまざまな問題が生じます。たとえば、燃やせるごみの中に金属類や石、コンクリートなどが混じると焼却炉の破損につながり、寿命も短くなるばかりでなく、有害な排ガスの発生を起こしかねません。また、資源ごみをほかのごみとして出すと、リサイクルができなくなってしまいます」と市環境資源課主査の山路晋彦さんが話してくれました。

正しいごみの分別とリサイクルのススメ

さて、私たちにとって、今後の課題は何でしょうか。

この取材を通して、何といたっても分別、そしてリサイクルというのがごみを減らすために私たちができる最善策であると改めて感じました。

今年から私たち登別市民は、ごみを5分別にして排出するようになりましたが、32分別などという気の遠くなるような分別が家庭で行われている都市もあるそうです。また、海外では、容器などのごみを減らそうと、化粧品や洗剤の量り売りなどの取り組みも見られます。

元気



今月のアドバイザー

千葉 裕美 保健婦

秋から冬に向かうこの季節、食べ物是一段とおいしく感じられ、味覚を楽しむ機会も増えてきます。その一方で、ついつい食べ過ぎてしまい、ズボンやスカートがきつく感じたり、体重計に乗るのが怖いと思われた方もいるのではないのでしょうか。

現代の日本では、食生活の変化や運動不足により肥満症の方が増加しています。

肥満とは、体の中で脂肪の占める割合が高いことをいいますが、一般的には身長からみた体重の割合が高いときに肥満ということが多いようです。筋肉隆々のスポーツ選手などは別として、体重の増加は体の脂肪の増加と考えられます。最近では、体脂肪計付きの体重計が普及していますので、これを利用し、自分が肥満かどうか、確認してみるのが良いでしょう。



定期的に体重を測ってみましょう

体重が増えてきたら、生活習慣のチェックを

ないとされるのは、糖尿病や高血圧、高脂血症などの生活習慣病を起しやすいためです。

肥満には、上腕や太もも、お尻などに脂肪がついた皮下脂肪型と、腹部の臓器の間にある腸間膜という部分に脂肪が蓄積する内臓脂肪型の2つのタイプがあります。内臓脂肪型の肥満は、皮下脂肪型の肥満に比べ、生活習慣病を起しやすいので、おなかが出ていいる割には皮下脂肪が少ないという方は、特に注意が必要です。

肥満は、エネルギーのとり過ぎや、活動量が少ないことで余分なエネルギーが体内に蓄えられることで起こっています。体重の増加が気になっている方は、毎日の食事の量や質、日ごろの活動が不足していないか、もう一度生活習慣をチェックしてみてもいいでしょうか。

人が輝き まちがとぎめく

仲間たち Group



ボールの変化を自在に操れるのがミニバレーの魅力です。

「PLUS-1」

「PLUS-1」は、平成元年に結成されたミニバレーのサークルです。会員は、男性15人、女性13人の計28人。毎週2回、仕事や家事を終えた会社員や主婦などが練習に汗を流しています。

ミニバレーは、ビニール製の柔らかいボールとバドミントンのネットを使い1チーム4人で競技します。男子チームのキャプテンを務める藤島秀則さんは、ミニバレー歴3年。「ルールが簡単でネットも低いので、子どもからお年寄りまで楽しめるスポーツです。初心者でも気軽に始められますよ」と藤島さん。

「PLUS-1」は、男女とも競技会にも積極的に出場しており、男子チームは、今年の2月に開かれたミニバレー全国大会の40歳以上の部で見事準優勝を飾りました。

「大会の出場を重ねるうちに反射神経が磨かれ、ボールの変化を自在



▲夜遅くまでの練習にも熱が入ります

に操るなど、いろいろな技術が身につく、だんだんとミニバレーの面白さがわかってきました。奥の深いスポーツですね」と藤島さんはミニバレーの魅力を話します。

また、室蘭市をはじめ道内各地のチームと親しく交流しており、一昨年開いたサークルの結成10周年の記念大会には、札幌市や小樽市、八雲町などのチームが駆けつけてくれました。

女子チームのキャプテン逢見さゆりさんは、ミニバレー歴15年で4児の母です。

「これまでずっと続けてこれたのも、練習中にはかの会員が子どもの面倒を見てくれるなど、いろいろと助けてもらったおかげです」と逢見さん。チームワークの良さはコートの中だけではないようです。

入会希望の方は、事務局の山瀬さん（☎02535）までどうぞ。

ガーデニングのコンテストはいかがですか

ガーデニングがブームです。市民会館やクリンクルセンターなどでガーデニングの講習会も開かれるようになりました。

このブームで、庭だけでなく、窓や扉、玄関などを丹精こめて手入れをした色とりどりの花で飾るご家庭が増えました。すてきな鉢やプランターを使っている方も見られます。最近、住宅街が華やかになったと感じるのは私だけでしょうか。

ここで一つの提案です。市内でガーデニングのコンテストを実施してみたいかがでしょうか。このコンテストで有名なのは恵庭市の恵み野地区で、私も見学に行ってきました。ほかの市から来たと思われる方たちが貸し切りバスなどでたくさん見学に訪れていて驚きました。

市民グループや商店会などが「恵み野フラワーガーデニングコンテスト実行委員会」をつくって、「モデルガーデンの部」「一般の部」「企業・商店の部」「ストリート部の部」に分けて表彰しているそうです。

コンテストを行って、市の広報紙

楽しかったこと、悲しかったこと、市への疑問や意見・要望などを企画広報室へ電話やはがき、封書、ファクス、電子メールでお寄せください。なお、個人や団体への中傷、営利を目的としたお話はご遠慮ください。

企画広報室

中央町6-11

TEL 051 122

FAX 051 108

Eメール: pr@city.noboribetsu.hokkaido.jp



や新聞などで、表彰されたお宅をモデルとして紹介していただくと、ガーデニングの初心者には生きたお手本になり、また、ベテランには新たな張り合いが生まれるのではないのでしょうか。

コンテストを行うことによって、ガーデニングをするご家庭が増え、結果として花がいっぱいのまちになることを願っています。

(千歳町 男性)

ふるさとの文化遺産

鶯別子ども獅子舞



昭和50年、鶯別神社の改築を機に、かつて宮城県で、平安時代から伝わる「白山獅子舞」を指導していた草岡久雄さん(故人)が、「鶯別にも郷土芸能を」と呼びかけ、「鶯別獅子舞」が誕生。

その後、地域の子どもたちに豊かな心が育つようにとの願いから、地域住民の協力により、昭和62年に「鶯別子ども獅子舞保存会」が発足しました。

この鶯別子ども獅子舞は、「四方清めの舞」「飛躍の舞」「仲良し舞」の三部で構成され、横笛、太鼓、鉦のリズムに合わせて二頭の獅子が舞い踊ります。

現在は、鶯別小・中学校の児童・生徒35人が、地域の指導者と鶯別小学校教諭の指導の下、地域の行事でその舞を披露しています。

▶問い合わせ 鶯別小学校

(☎7011)



あすなろ

すがわら なおひろ
菅原 直広さん(21歳)

医療法人社団千寿会三愛病院勤務

患者さんへのぬくもりのある対応を心掛けています



「患者さんからの電話では、ぬくもりのある対応を心掛けています。特にお年寄りの患者さんには、やさしく用件を聞いて、ゆっくりと答えるようにしているんですよ」と笑顔で話す菅原さんは、庶務係で代表電話の対応や職員の社会保険事務などを担当しています。就職して3年目、仕事に意欲を燃やす毎日です。

三愛病院野球部では、打順3番を打つ強打者。仕事を終えたあとも、ランニングや筋肉トレーニングなど、練習に余念がありません。

「シーズンオフになりますが、練習を続け、来年こそは、ぜひ全国大会に出場したいですね」と菅原さんは力強く話してくれました。

日本では、着物姿で街を歩く人が多いというイメージを思い浮かべていました

カミラさんは、デンマークの人口約8千300人の工業のまち、オーレスレブ市から初めて日本にやってきました。

「来日前に、日本に関する本を読みましたが、日本では着物姿で街を歩いている人が多いというイメージを思い浮かべていました。実際はデンマークと変わらぬですね」と日本の印象を話すカミラさん。

現在、市内にホームステイし、幼稚園や学校の訪問をはじめ市民サークルなどと交流しながら日本文化を学んでいます。

「デンマークの幼稚園や保育所では、先生一人が受け持つ子どもは5人以内と決められています。日本では一人の先生がたくさんの子どもを受け持っているのでも驚きました」と市内の幼稚園を訪問した感想を話すカミラさん。

市民は、税金がどのように使われているのか知る必要がありますね

登別中学校で行われた1年生の総合学習の時間に参加した際には、生徒から質問攻めにありました。「デンマークに興味をもってもらえてうれしいですね」とにっこり笑います。



▲市民と一緒に市民見学会に参加したカミラさん

また、10月13日には、市民が市の施設などを見学する市民見学会に参加しました。

「オーレスレブ市には、市主催の市民見学会はありません。市民は、税金がどのように使われているのか知る必要があるのです。このような行事は大変良いことです。帰国したら市に提案します」と感心した様子です。

今後、帰国までの期間「デンマーク料理教室」の講師としてデンマークの食文化を紹介するほか、書道や陶芸など日本文化の体験にも意欲を燃やすカミラさん。

「私の実家には浴槽がなく、今まで温泉にも入ったことがありません。登別ではぜひ、温泉を体験したいです」。温泉入浴には絶好の季節。カミラさんは登別の温泉にどんな印象をもつのでしょうか。



KIRARI

カミラ・キヤウルフさん

登別デンマーク協会では、文化交流事業として、毎年デンマークから研修生を招き、市民との交流などを通じて、登別とデンマークの親ほくを深めています。

今年の研修生はカミラ・キヤウルフさん。約2カ月間登別市に滞在し、市民との交流や日本文化の体験に意欲を燃やすカミラさんに登別の印象などを聞きました。

登別市民との交流や日本文化の体験を将来に生かしたい。



Camilla Kjaerulff 1980年1月生まれ。20歳。

デンマーク・オーレスレブ市出身。ビジネスカレッジを卒業後、地元市役所で2年間の研修を受ける。特技は、クッキーやケーキづくり。10月1日から11月22日まで登別市に滞在予定。



情報あらかると

男女共同参画講演会を開催します

カルルス温泉の名前の由来になったカルルスバード（現在のカルロピバリ・チェコ共和国）との交流に貢献された作家のシュミット村木真寿美さん（ドイツ在住）を講師に迎え、男女共同参画講演会を開催します。ぜひお越しください。

▼日時 11月24日（金） 開場18時・開演18時30分

▼場所 労働福祉センター（千歳町3丁目1-8）

▼テーマ 『大正の函館文学少女ヨーロッパを語る』

▼講師 シュミット村木真寿美さん

▼入場料 無料

※申し込みは不要です。

▼問い合わせ 企画広報室
(☎1122)

『市職員出前フリートーク』
をご利用ください

市は、『市職員出前フリートーク』を行っています。
この制度は、市職員が少人数（3〜20人程度）のグループのもとへお伺いし、市が取り組んでいる事業や

計画、さまざまな制度（行政改革、情報公開制度、医療費助成制度、介護保険制度など）などについて、情報提供や意見交換を行うものです。お気軽にご利用ください。

なお、情報提供のメニューや申込方法など、詳しくはお問い合わせください。

▼申し込み 企画広報室
(☎1122)

『公開ケース研究会』を開催します

『非行少年』と呼ばれる少年たちを、内側からむしばんでいる「現代的な不幸」とは何か。「公開ケース研究会」では、事例を通して、その根底に潜んでいる問題を考えます。それぞれの立場から、何をすべきか、何ができるかを一緒に考え、話し合ってみませんか。

当日は、保護司や更生保護婦人会、PTAなどの方々も参加し、自由に発言していただきます。

▼月日 11月13日（月）

▼時間 13時30分〜16時30分

▼場所 市民会館中ホール
▼対象 市内に居住する方
▼申し込み 11月6日（月）までに電話で社会福祉課（☎1911）

歯周疾患検診を行います

40歳を過ぎたころから、歯の喪失の原因となる歯肉炎や歯槽膿漏にかかる方が増えてきます。生涯、自分の歯で食べる楽しみを持ち続けるためにも、この機会に検診を受けてみませんか。

▼月日 11月21日（火）

▼受付時間 9時45分〜10時

▼場所 鷺別公民館

▼対象 満40歳以上の方で、自分の歯がある方

▼定員 10人（申込順）

▼検診料 無料

▼申し込み 11月16日（木）までに電話で保健福祉課

教育講演会を開催します

市制施行30周年・西暦2000年と道徳教育研究大会を記念して教育講演会を開催します。教育に関心のある方のお越しをお待ちしています。

▼日時 11月10日（金） 9時〜12時

▼場所 市民会館大ホール

▼テーマ 『道徳教育と感性・心の教育』

▼講師 高橋史朗さん（感性教育研究所所長・明星大学教授）

▼入場料 無料

※申し込みは不要です。

▼問い合わせ 幌別小学校
(☎2521)

(しんた21内☎0100)

12月の粗大ごみ収集

粗大ごみの収集は、地域ごとに決められた年2回の収集時期に、電話の申し込みにより行います。粗大ごみを出すときは、1枚160円のごみ処理券を購入の上、1品ごとにごみ処理券を張ってください。

▶申込方法 収集日初日の2週間前から収集日初日まで（土・日曜日、祝日を除く）の8時30分〜17時に電話で環境資源課へお申し込みください

12月の粗大ごみの収集日・地区		
地区名	収集日	申込期間 (土・日曜日、祝日を除く)
若草町1〜2丁目	12月4日(月)〜12月9日(土)	11月20日(月)〜12月4日(月)
新生町3〜4丁目	12月11日(月)〜12月16日(土)	11月27日(月)〜12月11日(月)
鷺別町1〜3丁目	12月18日(月)〜12月23日(土)	12月4日(月)〜12月18日(月)
鷺別町4〜6丁目	12月25日(月)〜12月30日(土)	12月11日(月)〜12月25日(月)

※このほかの地区の収集日については、『家庭ごみ収集カレンダー』に掲載しています。また、今後の『広報のほりべつ』でも紹介していきます。

申し込み 問い合わせ 環境資源課 (☎2958)

『新図書館建設を考えるシンポジウム』に参加しませんか

登別市にふさわしい生涯学習の情報拠点としての新図書館建設に向けて、図書館が文化施設や生涯学習施設として、今後どのように期待されるのか、広く市民の意見をお聞きし、設置構想策定の参考とするため、シンポジウムを開催します。

- ▼日時 11月18日(土) 13時30分～
- ▼場所 鉄南ふれあいセンター
- ▼内容

○基調講演「図書館設立と望ましい図書館のあり方」、講師：石沢修さん（石狩市民図書館副館長）

○パネリスト3人による意見発表
○講師、パネリスト、参加者による意見交換

※申し込みは不要です。

- ▼問い合わせ 市立図書館
(☎011-14324)

在宅介護支援センターを増設します

しんた21内にある「在宅介護支援センターしんた」は、在宅の要援護老人とその介護者から在宅介護などに関する総合的な相談に応じ、保健・医療・福祉サービスを受けられるように実施機関との連絡調整を行っています。

11月1日(水)から、新たに次の2カ

所の在宅介護支援センターを開設します。在宅介護などに関する相談は最寄りのセンターをご利用ください。

◎新たに開設する在宅介護支援センター

- 在宅介護支援センターゆのか（登別温泉町133登別厚生年金病院内）
- 在宅介護支援センターふれあい登別（登別東町3丁目1番地）

- ▼問い合わせ 保健福祉課
(しんた21内☎01100)

介護者リフレッシュ事業に参加しませんか

日ごろ介護をされている家族の方が集い、介護について学びながら、交流します。

- ▼月日 11月25日(土)～26日(日)（1泊2日）
- ▼場所 登別万世閣
- ▼対象 市内に居住し、日ごろから家族の介護をされている方
- ▼内容

- 痴ほうについての介護講習会
- 介護相談
- 介護者同士の交流会など

- ▼定員 30人（申込順）
- ▼参加料 3千円（宿泊費、バス代を含む）

※バスで送迎しますので、乗車時間や場所など、詳しくはお問い合わせください。

- ▼申し込み 11月6日(木)から15日(水)までに（土・日曜日は除く）電話

で社会福祉協議会

(☎0860)

ファミリーサポートセンター講演会を開催します

絵や服装などの色彩で児童や母親の潜在心理を探り、適切に対処する方法を学んでみませんか。

- ▼日時 11月11日(土) 13時30分～15時30分

▼場所 しんた21多目的ホール

▼テーマ 「子どもの心を観ることができずかゝ色彩で観る心と体の関係」

▼講師 高桑勉さん（色彩心理カウンセラー）

▼定員 100人（申込順）

▼参加料 無料

▼申し込み 11月8日(水)までに電話でファミリーサポートセンター
(☎0033)

ハローワークむろらんからのお知らせ

新規高卒者就職促進会 参加企業を募集します

ハローワークむろらんは、来春卒業予定の高校生を対象とした就職促進会に参加する企業を募集します。

この会では、参加企業の人事担当者による就職希望生徒との個人面接を行いますので、来春、新規高卒者の採用を予定している企業は、ぜひご参加ください。

- ▶日時 11月21日(火) 13時30分
 - ▶場所 達峯殿（室蘭市宮の森町1丁目1-64）
- ※詳しくはお問い合わせください。

事業主のみなさん 求人申し込みはお早めに

来春、卒業を予定している西胆振管内の高校生約2,500人のうち、714人が就職を希望しています。

事業主のみなさん、希望者の全員が早期に就職の内定を得られ、安心して卒業を迎えられるよう、来春の採用計画を立てられ、お早めに求人申し込みをお願いします。

申し込み 問い合わせ ハローワークむろらん
(室蘭公共職業安定所・☎08689)

登別市

親子文化祭

11月25日(土)

市民会館



みんなあいでよ!



中原義勝さん
市制施行30周年・西暦2000年市民
実行委員会自然景観部会スタッフ

マップを片手に 市内の散策を

西暦2000年も残すところ2カ月。1月23日に実施した市制施行30周年のオープニングセレモニーに始まり、たくさんの方のみなさんの参加と協力を得ながら行ってきたイベント・事業が大詰めを迎えました。

われら自然景観部会では、今まで市民から自慢できる景観写真を公募したところ、たくさんの方からの応募がありました。ご協力ありがとうございました。

現在、応募いただいた写真を活用して、市内のマップ作成に取り組んでいます。

私たちが住んでいるまちは、どんな歴史があり、そしてどんな自然があるのでしょうか。自分の「足」で歩き、そして自分の「目」で確認し、新たな登別の魅力を発見しようではありませんか。

市民みんながマップを片手に散策していることを夢に見ながら、早くお渡しできるよう、頑張ります。

問い合わせ／市制施行30周年・西暦2000年市民実行委員会事務局（〒059-8691登別市中央町5丁目6-1 登別商工会議所内 ☎4111）

『税に関する作品展』を
開催します

室蘭税務署は、11月11日(土)から17日(金)までの「税を知る週間」の行事として、「税に関する作品展」を開催します。

▼日時
○11月16日(木) 10時～20時

○11月17日(金) 10時～16時30分

▼場所 登別サテイ

▼内容 小学生の「税に関する標語」、小・中学生の「税に関する書道」など

▼問い合わせ 室蘭税務署
(☎4403)

『税に関する作品展』を
開催します

室蘭税務署は、11月11日(土)から17日(金)までの「税を知る週間」の行事として、「税に関する作品展」を開催します。

▼日時
○11月16日(木) 10時～20時

市民会館サークル展に
お越しください

市民会館で活動しているサークルの作品を展示します。

▼月日 11月7日(火)～10日(金)

▼時間 9時～17時(7日は13時～17時、10日は9時～15時)

▼場所 市民会館エントランスホール・1階廊下・大会議室

▼問い合わせ 社会教育課
(☎1129)

家事家計講習会に
参加しませんか

～室蘭友の会主催～

家計簿を通して、私たちの暮らし方について一緒に考えてみませんか。

▼日時 11月21日(火) 10時～12時

▼場所 登別公民館

▼内容 体験発表「家計簿から見える私の生活」環境、子育て、将来のこと、手早くつくれるおいしい朝食の実習など

▼参加料 400円(当日500円)

▼託児料 100円(予約が必要)

▼申し込み 広田さん
(☎4708)



- ▶参加料・入場料 無料
 - ▶持ち物 おしぼり(紙ねんど・とうもろこし人形作り・木工芸コーナーに申し込まれた方)
 - ▶その他 当日、9時30分から10時30分まで昼食(豚汁とおにぎり)の食券を200円で販売します
 - ▶申込方法 親子おもしろ工作コーナーは、11月6日(月)から17日(金)まで(土・日曜日を除く)に電話でお申し込みください(当日のお申し込みはお受けしませんので、ご了承ください)。なお、その他のコーナーの申し込みは、不要です。
- ※各コーナーは、子どもだけでも参加できます。
※当日、無料臨時バスを運行します。詳しくはお問い合わせください。

『市民作品展』作品募集

『親子文化祭』と同時に開催される『市民作品展』の作品を募集します。みなさんの力作をお寄せください。

▶募集作品 絵画、書道、写真、工芸などで、壁、机上、床展示が可能な作品

※搬入は、11月24日(金)の10時から12時までお願いします。

▶申し込み 11月6日(月)から17日(金)まで(土・日曜日を除く)に電話でお申し込みください

申し込み 文化・スポーツ振興財団
問い合わせ (☎1116)

コーナー	内 容	時 間	定 員	対 象
親子おもしろ 工作コーナー (受付9:30)	紙ねんどコーナー	10:00～11:30	40人(申込順)	5歳以上
	折り染めコーナー		30人(申込順)	小学生以上
	竹とんぼコーナー		30人(申込順)	小学4年生以上
	とうもろこし人形作りコーナー		20人(申込順)	小学3年生以上
	木工芸(似顔絵作り)コーナー		30人(申込順)	5歳以上
ちびっこ広場 コーナー	なにが出るかお楽しみ	10:00～11:30	なし	幼 児
おはなしほけつ コーナー	人形劇ほか	10:00～11:30		
作 品 展 コ ー ナ ー	家庭教育学級作品展	10:00～14:30	なし	どなたでもご覧になれます
	市民作品展			
老人大学研究科 コーナー	ハーモニカ演奏	11:40～12:00		
ザ・マジックショー	楽しいおしゃべりマジックほか	12:45～13:15		
児童劇コーナー	おにのたまご	13:30～14:30		

楽しいコーナーがいっぱい!

このほりべつ



▲竹とんぼ工作



▲ちびっこ広場



▲とうもろこし人形作り



◀紙ねんど工作



◀木工芸

市制施行30周年・西暦2000年記念
第4回登別市親子文化祭
で何かを発見しよう

芸術と文化の秋、親子で作るよこ
び・見るよこび・味わうよこびを
体験してみませんか。

▼日時 11月25日(土) 10時～14時30分

▼場所 市民会館

▼内容 ちびっこ広場コーナー、親子
おもしろ工作コーナー(紙ねんど・
折り染め・竹とんぼ・とうもろこし
人形作り・木工芸)、おはなしほ
けっとコーナー、作品展コーナー、
ザ・マシックスショー、児童劇コーナ
ー、老人大学研究科コーナー、もち
つき大会

※詳細は、20・21ページでお知らせし
ていますのでご覧ください。

▼問い合わせ 文化・スポーツ振興財
団(☎0143-21116)



と な り ま ち ・ ホ ッ ト ラ ン

白老町

しらおい創造空間「蔵KURA」
地域創造の拠点オープンします！

歴史的建造物の石倉を保存・再生し、
住民が自主管理・運営するしらおい創造
空間「蔵KURA」がオープンします。

オープンを記念し、コンサートや映画
鑑賞会、押し花の創作体験など10日間に
わたり楽しいイベントが盛りだくさん。

▶イベント期間 11月3日(土)～12日(日)
▶場所 しらおい創造空間「蔵KURA」
(白老町本町1-7)

▶問い合わせ 白老町文化推進ネットワ
ーク協議会(白老町教育委員会内
☎0144-252020)

室蘭市

三浦光世さんの記念講演会を
開催します

社会のあらゆる分野に女性と男性が共
に参画し、喜びも責任も分かち合う社会
の実現を目指し、講演会を開催します。

▶日時 12月14日(木) 18時開演
▶場所 室蘭市文化センター
▶演題 光と愛と命～妻・三浦綾子とと
もに歩んだ40年

▶入場整理券配布場所 ○登別市…企画
広報室女性担当 ○室蘭市…教育委員
会社会教育課、胆振地方婦人会館ほか
▶問い合わせ 室蘭市教育委員会社会教
育課(☎5081)

伊達市

『第13回アイヌ民族文化祭』に
お越しください

アイヌ文化の伝承と発展を図り、理解
を深めていただくため「第13回アイヌ民
族文化祭」を開催します。

ご家族おそろいでお越しください。
▶日時 12月2日(土) 13時～16時30分
▶場所 だて歴史の杜カルチャーセンタ
ー大ホール

▶内容 アイヌ古式舞踏、アイヌ語劇、
映像資料のビデオ放送、ムックリの製
作と演奏の体験、アイヌ語弁論大会
▶問い合わせ 伊達市社会福祉課
(☎0142-23331)